



視察2日目の訪問先、新東名「羽根トンネル工事現場」で記念撮影

平成29年度国内施設視察会

首都圏の高速道路ネットワーク工事の最前線を視察

東京外郭環状道路「市川中工事」／首都高速道路「晴海工事」「鮫洲工事」
「外環・東名JCT工事」／新東名「羽根トンネル工事」

自動運転関連技術などを体験試乗

日産自動車テストコース「グランドライブ」

日 本自動車会議所は11月28日～29日、「平成29年度国内施設視察会」を実施した。今回の視察会は、高速道路ネットワークの強化に向けて首都圏で進められている東京外郭環状道路（外環）、首都高速道路（首都高）、新東名高速道路（新東名）の大規模工事現場の視察に加えて、同一車線自動運転技術などの体験を目的に、日産自動車追浜工場に隣接する同社テストコース「グランドライブ」（神奈川県横須賀市）での試乗会を行った。

今回の視察会は、より多くの方々にご参加いただくため、1日のみでも参加可能の日帰り2日間のコースとし、グランドライブのみ参加いただけるコースも設定した。参加者は2日間で延べ52名。

【第1日目】

1. 東京外郭環状道路（外環）・市川中工事現場

JR総武線市川駅に集合した一行は、最初の視察地である外環・市川中（いちかわなか）工事現場（千葉県市川市）を訪問した。

本工事現場は、河川（真間川）、鉄道（京成本線、

JR総武線）、幹線道路（国道14号線）が連続的に交差しており、高速道路部は地下化される一方、並行する国道298号線は掘割から地下に移行・拡幅する箇所があるため躯体形状が複雑化し、千葉県区間の中で最も躯体構築の難度が高いとされている。

現場事務所で共同企業体として事業を実施している鹿島建設・奥本工事事務所長の受け入れの下、工事概要の説明を受けた一行は、高速道路と並走する一般国道が地下に入り京成本線の下を通る部分などの視察＝写真1＝のほか、工事用展望台より、学校や病院を含めた住宅密集地の中で進められている施工状況を確認することができた。完成は今年度の予定である。

2. 首都高速道路（首都高）・晴海工事現場

外環・市川中工事現場を後にした一行は、次にバスの中より首都高・晴海工事現場（東京都江東区－中央区）の視察を行った。

晴海工事現場は、首都高湾岸線より銀座方面に向かう首都高晴海線の豊洲出入口から晴海出入口まで



視察1日目の訪問先、外環・東名JCT工事の工事事務所での記念撮影

を新設する工事現場。バスの中から説明をいただいた首都高速道路会社によると、首都高晴海線は東京臨海部からの交通を首都高湾岸線に誘導する役割などを担い、晴海地区の開発の進展や東京オリンピック選手村の開設を踏まえて、晴海出入口への延伸・整備が行われているところ。こちらも完成は今年度の予定である。

3. 首都高・鮫洲工事現場

一行は次にバスを下車し、首都高・鮫洲工事現場（東京都品川区）を視察した。

到着後、首都高速道路会社・角田工事事務所長からのご挨拶に続いて、工事概要の説明を受けた。1963年の開通から50年以上が経過した首都高羽田線の東品川栈橋・鮫洲埋立部を更新する工事現場である。過酷な使用状況や海水などによる激しい腐食環境から損傷が激しく、抜本的に構造物を造り替えることとなった。既に都心部に向かう上り方面のう回路は完成・供用されており、現在は上り線の新規構造物の建設準備や、湾岸線から合流する高架部分の撤去などの工事が進められている。

視察では、上り線のう回路脇を通りながら、閉鎖



現況



大規模更新後(イメージ)

【イメージ図】首都高速鮫洲工事現場：東品川栈橋部の大規模更新工事



【写真1】外環・市川中工事現場：掘割部から地下に入る一般国道部分のトンネル

された旧上り線の栈橋部の腐食の状況や、新たな栈橋部の基礎部分の工事状況を確認し、最後に工事事務所屋上に設置された展望台から対象となる工事の全体を見渡しながらか説明を受けた。これまで海面上約3mの高さであった栈橋部の橋脚は、防食対策の強化などのため、約20mの高さを持つ高架構造となる予定で、完成後は壮観な姿になるものと思われる＝イメージ図＝。今後、本工事は順次上り線から下り線の更新へと進み、全体の完成は9年後の2026年度の予定である。

4. 外環・東名ジャンクション工事現場

1日目最後の視察先は、外環・関越自動車道大泉ジャンクション（JCT）から延伸し、東名高速道路と接続する東名JCT工事現場（東京都世田谷区）である。

東名JCTまでの延伸部分16.2kmは、地下40mよりさらに深い大深度地下に、上下それぞれ片側3車線のトンネル構造で建設される。視察は、工事事務所での工事概要の説明を受けた後、共同企業体として工事を実施している鹿島建設・佐藤工事事務所副所長の先導の下、東名JCTに作られた立坑に移動し、地上から地下70mのトンネル部まで工事用エレベーターで下り、工事状況を見学した＝写真2＝。東名JCTから出発し、土を削りながら掘り進むシールドマシンは、まだ立坑から歩いて10分弱程度の場



【写真2】外環・東名ジャンクション工事現場：大泉方向に掘削中のトンネル内部

所にあった。一行は、マシン先頭部のカッターフェイスの直後に設置されている、トンネルの壁となるコンクリートのパネルを貼り付けていく「エレクター」と呼ばれる機械まで間近に近づき、外径15.8mにもなるトンネルと、掘り進む機械の巨大さを実感する視察となった。現在、本工事の完成は2020年度が目標とされている。

【第2日目】

1. 新東名高速道路（新東名）・羽根トンネル工事現場

2日目、小田急線本厚木駅に集合した一行は、最初の視察地である新東名・羽根トンネル工事現場（神奈川県秦野市）に向かった。一行は工事を実施している鹿島建設・秀野工事事務所長の出迎えを受け、視察を開始した。現在、新東名は全路線のうち残りの未開通区間である御殿場JCTと海老名南インターチェンジ間で工事が進んでおり、羽根トンネルはその工事区間に位置する全長約2,900mの上下2本のトンネルである。既に上り線は貫通しており、今回は掘削中の下り線の視察を行った。

入り口から入ったトンネルはまだ路面が土のままであり、半円形の壁の部分もまだ仕上げのコンクリートが貼られていない荒々しい状態であった。羽根トンネル全体の完成予定は来年となっており、新東名の全線開通は2020年度が予定されている。

2. 日産自動車・「グランドライブ」

一行は2日間の視察日程の最後として、現在注目が集まっている「自動運転」に関連する先進安全技術を体感することを目的に、日産自動車が追浜工場の隣接地において、一般向けに同社製品や技術の体験試乗のために活用しているテストコース「グラン

ドライブ」（神奈川県横須賀市）を訪問した＝写真3＝。

イベントホール内会議室で同社渉外部の細野担当部長からの挨拶や同社の開発の取り組みなどの説明を受けた一行は、4組に分かれて、①同社が市販を開始した高速道路同一車線自動運転技術「プロパイロット」を搭載した「セレナ」、②ボタン1つで駐車操作のすべて（アクセル、ブレーキ、ハンドル、シフト、パーキングブレーキ）を自動で行う「プロパイロット パーキング」を搭載した電気自動車、新型日産「リーフ」、③エンジンで発電しモーターで駆動するタイプの電気自動車である「ノート・e-POWER」、④運転の楽しさの体験として「GT-R」の試乗を行った。

1周約3.7kmのテストコースは、高速道路の直線部、ランプからの合流、都市高速道路の段差、S字カーブ、ひび割れたアスファルト路面など、普段よく走行する道路環境が再現されている。当日は晴天で小春日和となる中、コースの周囲にある海や八景島シーパラダイス（遊園地）などの風景も目に入り、快適な環境の下で試乗会は進行した。

試乗会の合間のイベントホールでの休憩中には、電気自動車「リーフ」の見学・説明のほか、一行と日産側のスタッフとの間で、初めて触れる「プロパイロット」の操作、アクセルペダルのみで加速、減速、停止が行える新感覚の「e-POWER Drive」、また「GT-R」の加速感の感想などをはじめ、さまざまな意見交換が行われていた。最後に会議室での総括的な質疑を行い、約2時間半におよぶ試乗会は終了し、一行はグランドライブを後にして視察会は解散となった。



【写真3】日産グランドライブ全景（手前。右横は同社追浜工場）